



## 関東トラック協議会第19回総会埼玉で開催 5都県トラック部会と中央本部から27名参加

建交労関東トラック協議会は、関東・東北地方などの梅雨明けが宣言された翌日7月23日14:00から埼玉県さいたま市の浦和にある“さいたま共済会館”において第19回総会を開催しました。総会には、5都県のトラック部会・支部（東京10名、埼玉10名、神奈川3名：金崎書記長、佐藤執行委員、赤羽栃木2名、群馬1名）と中央本部の鈴木書記次長（全国トラック部会事務局長）を含め27名が参加をしました。

開会あいさつをおこなった栃木トラック部会の石井幹事はトラック業界の2024年問題をはじめとする課題が山積していることを指摘し、総会では課題の克服に向けて自由闊達な発言を呼びかけました。つづいて総会座長には埼玉トラックの前山さんを選出して第19回総会が進行されました。

はじめに主催者を代表してあいさつをおこなった埼玉トラ



開会挨拶をする栃木の石井幹事



座長に選出された前山さん



ックの奥貫議長（左の写真）は、トラック業界の2024年問題は多くのメディアで取り上げられて社会問題となっているが現場では多くの困難を抱えており、建交労関東トラック協議会としての運動と組織の強化が求められていると強調し総会成功に向けた協力を呼びかけました。

つづいて来賓としてあいさつをおこなった中央本部の鈴木書記次長（右下の写真）は、この1年間のトラック業界は改善基準告示改定、時間外労働60時間以上の割増賃金引上げ、トラックGメン創設など2024年問題にかかわる諸施策を中心に大きな動きがあった。しかし、2024年問題にかかわるメディアや財界シンクタンクなどの主な扱いは“トラック労働者の収入は時短で減少する”“荷物の配送が大幅に滞る”といった極端に社会不安をあおる内容に偏重している。しかし“2024年問題の実態を見ればトラック労働者の苛酷な労働実態が大きく改善されるような労働時間の短縮にはなっていない。長時間労働は継続されるし脳・心臓疾患による過労死の減少にもつながらない”と厳しく警鐘を鳴らしました。



## 上村事務局長が活動報告と新年度方針を提案 全組織の討論を経て全議案を満場一致で採択

その後、議案の提案に移り、上村事務局長（東京トラック）が一年間の運動の経過報告と新年度の関東トラック協議会の課題と活動方針を提案するとともに、規約の一部改定の提案、過年度の会計報告と新年度の予算提案、さらに新年度役員を提案をおこないました。会計監査報告は埼玉トラックの早船会計監査がおこないました。



議案の報告・提案を行う上村事務局長

つづいて全体討論に入り、東京トラックの石塚さん、埼玉



会計監査報告の早船会計監査

トラックの鈴木さん、神奈川トラックの赤羽、群馬トラックの桜井さん、栃木トラックの石井幹事の順で討論に参加し各都県トラック部会の運動経過や課題・決意などについて発言しました。

討論終了後には直ちに議案の採決に入りに移り、運動方針・新年度予算・規約の一部改訂については挙手による満場一致で採択し、その他の議案については満場の拍手によって承認されました。

新旧役員の紹介では、今期で議長を退任された埼玉トラックの奥貫岳史さんがあいさつし、新議長に選出された埼玉トラックの鈴木洋平議長からは長年に渡り副議長・議長の重責をはたされた奥貫さんに記念品が贈呈されました（左の写真）。また、新任の幹事には埼玉トラックから細川紀一さんが選出されました。



## 総会第2部は二つの争議解決の報告講演！ 県南：金崎書記長&京王新労：佐々木委員長

総会の第2部は、関東トラック協議会のなかで二つの争議が解決したことを全体の教訓とすべく報告講演がおこなわれました。進行は桜井幹事（群馬トラック）が務めました。はじめに神奈川県南支部三昭運輸分会争議の和解について支部の金崎書記長（下の写真）が5年近い闘争の経過と到達点を簡潔にまとめて報告しました。

つづいて京王新労組の佐々木委員長（左下の写真）は、京王電鉄のバス部門合理化に反対するたたかひの歴史から京王電鉄労組を脱退し京王新労組を立ち上げて2001年に建交労に加入して以降の会社による建交労組合員に対する激しい差別・組合潰しとの20数年に及ぶたたかひを経て、今年2月24日に都労委で全面和解を成立させるまでの闘争を詳細にわたり約50分間で報告しました。総会に参加した特に若い仲間には貴重な教訓となる報告講演となりました。



鈴木議長による団結がんばろう